

# 太陽通信

No Charity, but a Chance!  
～人間としての尊厳が保たれる  
社会の実現～

No.328

2017(H29)

3

社会福祉法人太陽の家広報紙 <http://www.taiyonoie.or.jp/>

## ソニー・太陽株式会社 盛田新社長に聞く

2月1日よりソニー・太陽株式会社に盛田陽一社長が就任しました。目標や感想などお話を伺いました。

### 1. このたびは社長就任おめでとうございます。就任されてまだ3週間ですが、ソニー・太陽の感想はいかがですか？

ソニー・太陽はとても多様性に富んでいる会社だと感じています。いろいろな障がいのある社員がいるということもそうなのですが、同じ視覚障がいのある社員であっても見え方に違いがあるように、同じ障がいでもその人によって特徴があるということを実感し、これはまさに多様性だと思いました。その多様性がごく自然に存在している、それがソニー・太陽なんだと思います。

### 2. 現在、主にどのような製品や業務に取り組んでいますか？

私たちは特例子会社ですが、ソニーのエレクトロニクス商品のものづくりの一翼を担い、特に音づくりではマイクロホンの設計から製造、サービスまでを行うソニーのマイクロホン基幹工場であり、高品質な音を世界中に届けています。更には、障がいを補完する様々な工夫や技術により、障がいのあるなしに関わらず働きがいのある職場環境を創り出し、そのノウハウや事例をソニーGP各社へと提供しています。

### 3. 現在、あるいはこれからの御社の目標をお聞かせください。

音づくりへのこだわりや障がい者雇用のノウハウ等守っていかなければならないものはしっかりと残しつつ、どんどん進んでいく世の中の状況や社会のニーズに応じて当社も進んでいかななくてはならないと考えています。これからそのあたりの見極めをしっかりと行い、当社をますます進化させていきたいと思えます。そして「ソニー・太陽のブランド化」の実現です。まだまだソニー・太陽という社名を知らない、知っていても何の会社なのかということ知らない方が多いと感じていますので、多くの人に当社を知ってもらいたいです。

### 4. 御社では多くの障がい者の方が働いていますが、どのような取り組みをされていますか。また、一緒に働かれていますか？

井深ファウンダーの精神である「障がい者という特権なしの厳しさで健丈者より優れたものを」という考え方のもと、



「障がいを感じない、感じさせない環境」の実現に向け、さまざまな活動に取り組んでいます。また、障がいのある社員自らが、各種講座やシンポジウムに参加し、次世代を担う障がいのある学生や支援者などに対してソニーの目指す障がい者雇用の精神や取り組みを伝えています。

### 5. 新社長としての新しくチャレンジ(挑戦)したいことはありますか？

当社は音に特化している会社ですが、社員には音以外のことにも関心を持ってもらい、ソニーの取り組みはもちろん、今社会や世界で何が起きているのか、どこに向かおうとしているのかを知るために一人ひとりのアンテナを高くしてほしいと思っています。

### 6. 座右の銘、ご趣味などあれば教えてください。

「意志あれば、道あり！」です。趣味は飛行機です。私は子どものころから飛行機が大好きで、飛行場に行けば何時間でも眺めていられます。プラモデルは家に4,000機。映画も飛行機が一瞬でも映る作品は大好きです。操縦免許だって取得しましたしね。

#### 盛田陽一氏

実家は愛知県の造り酒屋、父の仕事の関係で、1962年仙台で生まれ、小学校からずっと東京で育つ。1992年ソニー株式会社入社。ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社の生産技術開発センターで、主にデバイス系生産技術の開発を行っていたが、IoT (Internet of Things) やAI (Artificial Intelligence) 等の新しい技術をどうやってものづくりに展開していくか等にも取り組んでいた。ようやく引越しの片づけが一段落したので、これからおいしいものを食べ歩いたり、温泉にゆっくり浸かっていこうと考えている。水族館が好きなので「うみたまご」にも是非行きたいとのこと。

## オムロン京都太陽の寒川進さんが 平成28年度「京都スポーツの殿堂」入り

オムロン京都太陽株式会社の寒川進（かंगाわすすむ）さんが、平成28年度「京都スポーツの殿堂」入りし、2016年12月26日ロームシアター京都にて表彰式が行われ、認定証を授与されました。

「京都スポーツの殿堂」とは、京都市が京都にゆかりのあるトップアスリート等の功績を讃えるとともに、その力で市民スポーツの振興をはじめ、子どもたちや市民の皆様にも夢と希望を抱いていただくため、平成22年度より創設されたものです。今年度はフェンシングの太田雄貴さん、女子マラソンの野口みずきさんと並び、寒川さんがその栄誉に輝きました。

寒川さんは2004年のアテネパラリンピックの陸上の日本代表として1,600mリレーで銅メダルを獲得しました。また、全国車いす駅伝競走大会には京都Aチームの一員として長年にわたり出場し、2009年、2010年にはエースとして2年連続の優勝に貢献しました。京都マラソンの車いす競技にも第1回大会から出場しており、第3回、5回大会では優勝し、現在も第一線で活躍を続けていることが評価され、今回の受賞につながりました。寒川さんは「スポーツで京都



をそして日本を元気にしたい。そして、健常者や障がいのある方といった区別なく、見る人に夢や希望、元気や感動を与えられるように、これからも頑張っていきたい」と話していました。

## 第26回 日本障がい者スポーツ学会 in 大分開催される

1月21日、22日の2日間にわたり、第26回日本障がい者スポーツ学会 in 大分（中村太郎大会会長）が太陽の家で開催されました。北は北海道から南は沖縄まで約150人が出席し、基調講演、特別講演、シンポジウムの他、39題の研究発表が行われました。大分での開催が今回4回目となったこの学会は、1991年11月第11回大分国際車いすマラソン大会の開催に合わせて「日本車椅子スポーツ研究会」として発足しました。

21日は中村太郎理事長による基調講演「太陽の家のあゆみ」と28題の研究発表がありました。医師や理学療法士、研究者、スポーツ関係者などが障がい者のスポーツや医療、リハビリテーション、国際的活動について発表を行い、熱心な質疑応答が行われました。初日の最後は大分大学福祉健康科学部

の片岡晶志教授による特別講演「障がい者スポーツに貢献できる人材の育成—大分大学福祉健康科学部の挑戦—」が行われました。

22日の午前中は、「リオパラリンピックの医療班活動と今後の課題について」をはじめとする医科学研究センターの11題の発表がありました。その後、社会福祉法人恩賜財団済生会の炭谷茂理事長による「ソーシャルインクルージョン」についての基調講演が行われました。午後のシンポジウムでは、5人の大学関係者が「大学における障がい者スポーツ医科学研究」についてのテーマでそれぞれの研究や取り組みについて説明し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて新たな提言もありました。2日間の学会を通じて、それぞれの地域における障がい者スポーツの普及や発展、障がい者スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、参加者にとって有益な情報交換の場となりました。



1日目：「太陽の家のあゆみ」について中村太郎理事長による講演



2日目：シンポジウムの様子



# 新成人紹介

今年も太陽の家では10人の仲間が新成人を迎えました。おめでとうございます。

## ＊別府



写真左から  
菊本裕太さん  
鶴田尚貴さん  
(就労継続支援B型)

## ＊愛知



写真左から  
鈴木裕也さん、森下幸紀さん  
(就労継続支援B型)  
兼子宗一郎さん  
(就労継続支援A型)

## ＊京都



写真左から  
福田直菜さん、尾関衛さん  
梅垣早希さん、井通穂乃香さん  
(就労継続支援B型)  
日高純実さん  
(就労継続支援A型)

## 第28回 九州車いすツインバスケットボール選手権大会開催

1月28日、29日の2日間にわたって第28回九州車いす



ツインバスケットボール選手権大会が別府アリーナで開催されました。この大会を開催するにあた

り、太陽の家関連企業をはじめとする多くの企業や生活支援事業所、友人などから協賛をいただき、お陰さまで成功のうちに終了することができました。

今大会には、沖縄を含む県内外から8チーム、太陽の家からはレイカーズとアポロズの2チームの計10チームが参加し、九州チャンピオンの座を獲得するために、激しい戦いが繰り広げられました。レイカーズもアポロズも6年ぶりのホームでの開催で、熱のこもった熱い応援を背に気合充分で一回戦突破を目指したのですが、両チームとも一回戦敗退という残念な結果となってしまいました。この敗戦を糧に、これからも全ての関係スタッフ・チームメイトとともに、九州チャンピオンの座の奪回と障がい者スポーツの発展、普及度アップを目指して頑張っていきますので応援をよろしくお願いいたします。

(太陽の家レイカーズ 三浦貴士)

## 企業会研修 ～兵庫県就労施設視察～

2月9日、10日の2日間企業会研修には関連企業と太陽の家から22人参加し、兵庫県にある特例子会社3社を訪問しました。1社目の阪神友愛食品株式会社(COOP神戸)では知的障がい者の職業能力開発を目的に1986年より県からの委託で能力開発センター(訓練校)開校し、自社以外の一般企業で350人近くが現在も働いているとのこと。また4年前より新規に株式会社を設立し、就労継続支援A型も始めています。2社目の給湯器製造の株式会社エスコアハーツ(ノーリツ)では障がい者雇用の役割を自社、福祉的就労支援を子会社の株式会社すまいるハーツ(就労継続支援A型)、福祉施設へ作業提供を別の子会社の株式会社リハーツが行うなど、三位一体となった福祉モデルを展開していました。3社目の株式会社日本パーソナルセンター(UCC)では、専任のジョブコーチ3名を配置し、

採用から定着支援までの行うべき支援内容が具体的で明確なものとなっていました。3社それぞれ特徴が違い、企業関係者、施設職員のそれぞれの立場から見て今後の就労支援に非常に参考になる有意義な研修でした。

(別府事業本部 別府工場課 恒松克己)



★ダイバーシティ・マネジメント研修開催★

富士通エフサス太陽株式会社では、親会社（株式会社富士通エフサス）従業員の皆様を対象に、ダイバーシティ・マネジメント研修を年に10回太陽の家で開催しています。この研修は企業における「多様性」の活用を促進するためのプロセスで、女性の活用・障がい者雇用・時短勤務の推進をし、障がい者への理解を深めていく目的で行っています。研修の内容としては、車いす乗車体験、職場実習、太陽の家グループ企業の見学などの体験を通じ、障がい者と共に働くための職場環境、サポート体制の理解を促し、障がい者雇用拡大に向けた活動を行っています。先月の16日、17日の2日間にわたって行った研修会では、15人が参加し、ダイバーシティ・マネジメントについて考察し、交流を深めました。

（富士通エフサス太陽株式会社 管理課 富ヶ原裕司）



★大分県委託訓練「ジョブトレーニング科」修了式★

昨年12月20日、大分県の委託事業である「ジョブトレーニング科」の修了式が本部集会所で行われました。この事業では、7名の訓練生が8月より約4ヶ月間にわたって接遇やビジネスマナー等の基礎教育、IT講座、外部企業での実習等を学びました。なかでもIT講座ではワード、エクセルを中心に合計71時間の訓練をしました。訓練期間中は体調管理に留意しながら、それぞれに合ったペースで行い、無事に修了式を迎えることが出来ました。修了式では宮原事務局長から、修了証書が授与され、受講生を代表して大久保顕仁さんが今後の決意を述べました。

進路状況は、1名が引き続き就労移行支援、2名が他施設利用、4名が就職となりました。訓練を活かし、それぞれの場所で活躍することが期待されます。



お知らせ

12/11~2/10

主な来訪者 [12/11~2/10]

別府	12/20	藤華医療技術専門学校 作業療法学科	23人
	12/21	熊本駅前看護リハビリテーション学院	80人
	12/22	大分県産業創造機構	2人
	12/28	株式会社ハローデイ	4人
	1/20	第26回日本障がい者スポーツ学会in大分参加者	40人
	1/30	公明党さいたま市議会議員団	5人
	1/31	溝部学園短期大学 食物栄養学科	11人
	"	筑紫人権擁護委員協議会	29人
	2/ 1	株式会社安川電機	4人
	2/ 7	福岡県議会厚生労働環境委員会 福岡県職員	18人
	2/ 9	愛知県議会健康福祉委員 辻 秀樹様	
愛知	12/14	株式会社 LITALICO リタリコワークス豊橋	16人
	2/ 1	東京人権啓発企業連絡会 第4グループ	12人
京都	12/12	NPO富士見教育交流センター	19人
	12/14	本田技研工業株式会社	1人
	"	京都市身体障害者福祉施設長協議会	19人
京都	12/15	坪村(ピョンチョン)工業高等学校	57人
	12/16	甲南大学法学部	22人
	12/19	社会福祉法人いずみ福祉会	11人
	12/20	韓国生産性本部	14人
	12/21	公益社団法人関西経済連合会	3人
	12/22	東総合支援学校	3人
	1/13	野田基子様他	2人
	"	Park Jinwoo様他	4人
	1/18	衆議院議員 木村弥生様	
	"	センテック株式会社	6人
	1/19	朴 秀珍様他	5人
	1/24	北総合支援学校	3人
	1/25	一般財団法人 海外産業人材育成協会	26人
	1/27	赤十字奉仕団婦人部	25人
	"	京都ジョブパーク	6人
	1/30	(財)海外産業人材育成協会	33人
	2/ 3	伊藤忠商事株式会社	7人
	2/ 7	サンスター株式会社	6人
	2/ 9	(株)平山	13人
	2/10	メットライフ生命保険(神戸)	10人